

X帯気象レーダーの検討体制(案)

第8回X帯SWG資料(気レX8-3)

現在、情報通信審議会気象レーダー作業班において、C帯/X帯気象レーダーの技術的条件を検討しているが、他システムとの共用条件、占有周波数帯幅、周波数の許容偏差、測定条件等、実測が必要な多くの課題を抱えている。一方、来年度に9.7GHz帯汎用型気象レーダーの導入計画もあるため、当該審議会において短期に行う検討事項として整理し、それ以外は長期に行う検討事項として関連会合(ARIB、技術試験事務)による十分な検討を経て、当該審議会にて必要な技術的条件の検討を再開する方向で進める。

【ARIB】
気象レーダー
調査検討会

長期

9.7GHz帯

諸元1

高性能型

空中線電力：10kW以下
最大EIRP：110dBm以下
ビーム幅：1.2度以下
(例 XRAIN、自治体等)

諸元2

汎用型

空中線電力：400W以下
最大EIRP：92dBm以下
ビーム幅：4.5度以下
(例 民間気象会社、メーカー、自治体等)

今後、民間等が実用局として
運用を想定しているレーダーの諸元

現在、実験試験局として
運用されているレーダーの諸元

諸元の統一

長期

9.4GHz帯

【情報通信審議会】
陸上無線通信委員会
気象レーダー作業班

短期

【技術試験事務】

9.4GHz帯における動的な周波数
共用に関する検討会

【分類】

- ① 諸元については下図の「諸元1」と「諸元2」の2種類に分ける。
- ② 「諸元1」を「高性能型」、「諸元2」を「汎用型」と称する。
高性能型：XRAINなどの大型のレーダーを想定
汎用型：民間等が運用する小型のレーダーを想定
- ③ 気象研究目的等の実用化を想定していないレーダーの諸元は含まない。